

備前市事務事業評価シート

(平成24年度事業)

事業の概要		事業開始年度		平成14年度から		根拠法令・例規等				
総合計画	大項目	基本目標	03	地域文化と人が輝くまちづくり		問	担当課(室)	世界遺産登録推進室		
	中項目	基本施策	03	歴史と文化の輝くまちづくり			合	職・氏名	副参事 横山裕昭	
	小項目	施策	02	文化財の保存と活用			先	電話	0869-64-1841	
事務事業名		02		旧閑谷学校世界遺産登録推進事業		このシート作成に要した時間		2.0 時間		

事業の目的		Plan	
対象(誰・何に対して)	旧閑谷学校や世界遺産に興味関心がある人。		
目的(何のために)	旧閑谷学校の建造物とその創学の精神を受け継ぎ、未来の世代へ継承するために世界遺産への登録を目指す。		
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	旧閑谷学校世界遺産登録推進委員会が他の民間団体と積極的に協力し、応援活動を盛り上げる。		

事業の実績		Do	
目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	閑谷学校世界遺産登録推進委員会事務事業	旧閑谷学校の世界遺産登録推進へ向け、シンポジウムや講座などを開催し、広報活動に務める。	
	旧閑谷学校世界遺産登録推進事務事業	専門委員の会議を開催し、提案書案を作成する。関係諸機関と調整を行う。	

事業費等		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
決算	事業費	千円	2,458	2,461	1,711
	必要人員	人	0.42人	0.97人	0.66人
財源	事業費	千円	6,154	10,776	7,142
	国庫支出金				
	受益者負担				
	繰入金				
	市債				
その他()					
一般財源		6,154	10,776	7,142	
受益者負担比率	%	-	-	-	

結果指標		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
結果指標名	説明				
専門委員指導数	提案書作成に向けた指導延べ委員数		18	12	5
対前年比	%		-	66.7%	41.7%
活動コスト	円		0	0	0
単位当たりコスト			0	0	0

事業の成果		年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
成果指標名	目標値(A)		200	200	200	200
	実績値(B)		160	194	200	到達目標値
	達成率(B/A)		80.00%	97.00%	100.00%	200
成果指標設定の考え方・式や説明						
世界遺産について理解を深めてもらい、賛同していただける方を増やす必要があるため、成果指標にした。						

事務事業の評価		該当する項目を から へ く 「コピー」して「貼り付け」してください		Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	必要性	市民ニーズ	妥当性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い C
	効率性の評価	コスト	手段	効率性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い C
有効性の評価	目的達成度	市民参画度		有効性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い C

進行年度(H25年度)の改革改善内容	
状況	拡充 現状継続 見直し 縮小 整理統合 休止 廃止・完了
説明	旧閑谷学校世界遺産登録検討専門委員の意見を受けて、旧閑谷学校単独での国内暫定一覧表への記載を目指す。さらに理解が得られるよう再度、文化庁に提出する報告書「学びの原郷 閑谷学校」の作成に取り組む。関係機関・団体との連携を強化し、ホームページでの情報提供を強化する。また、今後の事業をより充実させるためには、戦略的な取り組みを実施している行政組織から情報を得る必要がある。

総合評価		総合評価
専門委員の委嘱を行い、調査研究を進めてきた。さらに、閑谷学校の普遍的価値や世界遺産への取り組みや、その他の資料をまとめた報告書「学びの原郷 閑谷学校」を作成し、文化庁へ提出する。講座、フォーラム等は継続して開催し、研究成果や活動そのものを多くの人に知ってもらい、支援者を増やす必要がある。戦略的に世界遺産登録に向けて事業を継続するのであれば、コストの増加は避けられない。		A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い C

平成25年度の方向性・取組目標		Action	
方向性	拡充 現状継続 見直し 縮小 整理統合 休止 廃止・完了		
取組目標	平成24年4月に報告書「世界遺産暫定一覧表への追加記載に係る検討報告 概要」などを文化庁に提出し、10月に文化庁へ説明に行った。文化庁の回答から「旧閑谷学校が単独で世界遺産に相応しいことが分かるように国内外の資産と比較研究する」「世界遺産登録に向けた明確な戦略を考える」などの指摘があった。これらのことについて作業が進めば再度報告を聞くこととなる。周知・広報事業を継続しながら新たな報告書「学びの原郷 閑谷学校」を作成し、平成26年度中に提出するよう作業を進めていく。		

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標がある成果指標に留意しな